

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第79号(令和6年12月発行)

令和6年は、10、11月に第3回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

諸岡 覚議員



主な質問項目
・石原地区・塩浜地区の海岸保全
施設整備について

- 管理者（知事）自ら先頭に立って国への要望活動に取り組んだと聞いている石原地区・塩浜地区の海岸保全施設整備について、「四日市港海岸直轄海岸保全施設整備事業」として、新規事業化された経緯と現在の進捗について聞きたい。
- これまでも積極的に要望活動に取り組んでいるが、海岸事業の予算確保に向けた取組、決意など聞きたい。
- 石原地区・塩浜地区の海岸保全施設の整備については、副管理者（四日市市長）、「四日市港の海岸整備を進める会」等との官民一体で、国直轄事業による新規事業化を国に強く要望した。令和5年9月30日には「四日市港海岸シンポジウム」を開催。多くの参加者があり、国会議員も与野党超党派で6名の参加があり、地元の熱意が物凄く、地元の声が非常に強いことが大きなポイントだったと思う。事業の進捗については、調査業務を順次進め、一部の区間では設計に入ったところと聞いており、関係者との調整を終わらせ、早く着工に入っていきたい。
- 予算確保に向けての取組は、10月2日に財務省・国土交通省の幹部に対して、10月16日に全国港湾知事協議会意見交換会にて予算確保を要望。11月15日は「四日市港の海岸整備を進める会」との要望活動など、国にしっかりと訴えてくる。
- これまでの自身が培ってきた経験、人脈を使いながら全力で取り組んでいくという管理者の力強い言葉は、一県民として、四日市港管理組合議会議員として頼もしく思うし、そういう努力をしっかりと支えていきたい。

川口 円議員



主な質問項目
・四日市花火大会の今後の
取組について

- 令和4年の第35回大会を最後に、霞ヶ浦地区での四日市花火大会は幕を閉じたが、多くの市民や団体から再開を望む声があることを受けて、今年8月に花火打ち上げ試験を実施したと聞く。再開に向けた打ち上げ試験の結果について聞きたい。
- 四日市花火大会実行委員会での報告によると、花火の打ち上げ試験は、8月24日に四日市地区で実施された。事前募集の調査員400人を対象に、会場へのアクセスに関する検証や、観覧席の配置を検討するための花火の見え方などの調査のほか、陸上の交通規制や海上における船舶の通行規制、事業所・個人敷地への不法侵入などについて、調査検証が行われた。
花火の打ち上げ試験に関する調査員の評価はおおむね満足であったが、港湾活動との調整、海上における船舶の通行規制に関しては、再開に向けて解決すべき課題も散見された。その結果を踏まえ、実行委員会で改めて協議した結果、課題を一つひとつ解決して、令和7年8月31日の花火大会再開を目指して準備を進めていくという方針が示された。
- 四日市のイメージ向上と賑わい創出を図るため、安全・安心を最優先に、多くの県民・市民等が楽しみにしてもらえるような花火大会を早期に再開すべく関係者と一丸となって取組を前進させていきたい。
- やめるのは簡単だが、しっかりと続けていくことは大事だと思う。花火をなくすよりも、協力してやってほしいと強く応援をしたい。引き続き尽力してほしい。